ホンダ車故障診断アプリケーション Version 8.0.0

取扱説明書

ご利用の前に

・この取扱説明書をよくお読みになり正しくご使用ください。
・この取扱説明書は、製品と一緒に大切に保管してください。

警告

(1)　故障診断機本体から煙が出る、異臭がするなどの異常がある場合は、ただちに車両のイグニッションスイッチと診断機本体の電源をOFFにして、ダイアグケーブルを抜いてください。
　※　火災の原因となります。

注意

(1)　本アプリケーションは故障診断機専用です。販売元が認定する診断機以外の他メーカーの診断機には使用できません。
　※　診断機本体、アプリケーションソフトの故障の原因となります。
(2)　本アプリケーションはホンダ車専用です。他メーカーの車両には使用できません。
　※　他メーカーの車両に使用すると、車両に悪影響をおよぼす恐れがあります。
(3)　車を修理する場合は、カーメーカー発行の整備マニュアルに基づき修理を行なってください。
(4)　販売元で認定している故障診断機用アプリケーションソフト以外のソフトやデータ類を、付属のCFカードにインストールしないでください。
　※診断機本体の誤作動や故障の原因となります。
(5)　診断機本体にCFカードを取り付ける時や取り外す時は、実行中のアプリケーションソフトを停止させ、電源をOFFにしてください。
　※　アプリケーションソフト実行中や電源ONの状態でCFカードの取り付けや取り外しをすると、故障診断機本体やCFカード内のプログラムやデータを破壊する恐れがあります。
(6)　診断機本体に拡張計測ボードを取り付ける時や取り外す時は、実行中のアプリケーションソフトを停止させ、電源をOFFにしてください。
　※　アプリケーションソフト実行中や電源ONの状態で拡張計測ボードの取り付けや取り外しをすると、故障診断機本体やCFカード内のプログラムやデータを破壊する恐れがあります。
(7)　CFカードを抜いた状態で故障診断機を長時間、放置しないでください。
　※　CFスロット(挿入口)を開放したままにすると、本体内部にホコリや水滴が入り、故障となる原因を誘引します。
(8)　CFカードを水に濡らしたり、曲げたり、落としたり、衝撃を与えないでください。
　※　故障の原因となります。
(9)　CFカードを挿入する時は、診断機に向きを合わせ挿入してください。
　※　向きを間違えると故障の原因となります。
(10) CFカードを分解、改造しないでください。
　※　故障の原因となります。
(11) CFカードのコネクタ部分または内部に異物を入れないでください。
　※　故障の原因となります。
(12) CFカードを直射日光のあたる場所、温度の高い場所、湿度の高い場所、ほこりの多い場所に放置しないでください。
　※　故障の原因となります。
(13) CFカードのコネクタ端子に指で直接触れないでください。
　※　故障または接触不良の原因となります。
(14) ケーブルの抜き差しは、コネクタハウジングをつかんで行ってください。
　※　ケーブルを直接引っ張ると断線の原因となります。

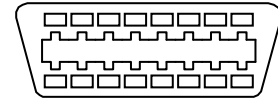
目　次

1. サポート範囲

1.1. 対象車種

(1)診断可能条件

本アプリケーションは、下記に示すすべての条件を満たすホンダ車のコントロールユニットで故障診断を行なうことができます。

- 国際標準規格の診断コネクタ(SAE J1962のコネクタ)を装備した車両。
- 本アプリケーションが診断対象としているシステムで、かつK-LINE(7番端子)またはCAN(6および14番端子)で故障診断通信を行うコントロールユニット。
- 日本国内で生産された12Vバッテリのガソリン車。

[国際標準規格診断コネクタ]

［対象車種一覧 2014年12月現在］

車種	発売時期
アコード	2002年10月フルモデルチェンジ～2008年12月フルモデルチェンジ前 2008年12月フルモデルチェンジ～2011年2月マイナーチェンジ前 2011年2月マイナーチェンジ～2012年4月マイナーチェンジ前 2012年4月マイナーチェンジ～
MDX	2003年2月～
エレメント	2003年4月～
インスパイア	2003年6月フルモデルチェンジ～2007年12月フルモデルチェンジ前 2007年12月フルモデルチェンジ～2010年7月マイナーチェンジ前 2010年7月マイナーチェンジ～2012年9月
ライフ	2003年9月フルモデルチェンジ～2008年11月フルモデルチェンジ前 2008年11月フルモデルチェンジ～2012年6月マイナーチェンジ前 2012年6月マイナーチェンジ～
オデッセイ	2003年10月フルモデルチェンジ～2008年10月フルモデルチェンジ前 2008年10月フルモデルチェンジ～2012年7月マイナーチェンジ前 2012年7月マイナーチェンジ～
エリシオン	2004年5月～2009年9月マイナーチェンジ前 2009年9月マイナーチェンジ～2012年6月マイナーチェンジ前 2012年6月マイナーチェンジ～
エリシオンプレステージ	2006年12月～2009年9月マイナーチェンジ前 2009年9月マイナーチェンジ～2012年6月マイナーチェンジ前 2012年6月マイナーチェンジ～
エディックス	2004年7月～2009年8月
CR-V	2004年9月マイナーチェンジ～2006年10月フルモデルチェンジ前 2006年10月フルモデルチェンジ～2009年9月マイナーチェンジ前 2009年9月マイナーチェンジ～2011年11月フルモデルチェンジ前 2011年11月フルモデルチェンジ～2012年10月マイナーチェンジ前 2012年10月マイナーチェンジ～
レジェンド	2004年10月フルモデルチェンジ～2008年10月マイナーチェンジ前 2008年10月マイナーチェンジ～2012年7月
エアウェイブ	2005年4月～2010年8月
ステップワゴン	2005年5月フルモデルチェンジ～2007年2月マイナーチェンジ前 2007年2月マイナーチェンジ～2009年10月フルモデルチェンジ前 2009年10月フルモデルチェンジ～2012年4月フルモデルチェンジ前 2012年4月フルモデルチェンジ～
シビック	2005年9月フルモデルチェンジ～2010年8月
シビックハイブリッド	2005年11月フルモデルチェンジ～2010年12月
シビックTypeR	2007年3月～
シビックTypeR EURO	2009年11月～2012年6月
ストリーム	2006年7月フルモデルチェンジ～2009年5月マイナーチェンジ前 2009年5月マイナーチェンジ～2012年4月マイナーチェンジ前 2012年4月マイナーチェンジ～
ゼスト	2006年2月～2008年12月マイナーチェンジ前 2008年12月マイナーチェンジ～2012年11月
パートナー	2006年3月フルモデルチェンジ～2010年8月
クロスロード	2007年2月～2010年8月
フィット	2007年3月フルモデルチェンジ～2010年10月マイナーチェンジ前 2010年10月マイナーチェンジ～2012年5月マイナーチェンジ前 2012年5月マイナーチェンジ～
フィットハイブリット	2010年10月～
フリード	2008年5月～2011年10月マイナーチェンジ前 2011年10月マイナーチェンジ～

続き

車種	発売時期
フリードスパイク	2010年7月～2011年10月マイナーチェンジ前 2011年10月マイナーチェンジ～
インサイト	2009年2月フルモデルチェンジ～
アクティトラック	2009年12月マイナーチェンジ～
アクティバン	2010年8月マイナーチェンジ～
バモス	2010年8月マイナーチェンジ～
CR-Z	2010年2月～2012年9月マイナーチェンジ前 2012年9月マイナーチェンジ～
N- BOX	2011年12月～2012年12月マイナーチェンジ前 2012年12月マイナーチェンジ～
フリードハイブリッド	2011年10月～
フリードスパイクハイブリッド	2011年10月～
フィットシャトル	2011年6月～2012年6月マイナーチェンジ前 2012年6月マイナーチェンジ～
フィットシャトルハイブリッド	2011年6月～
フィットEV	2012年3月～
N-BOX+	2012年7月～2012年12月マイナーチェンジ前 2012年12月マイナーチェンジ～
N-ONE	2012年11月～

※ 上記は参考例です。車載コントロールユニット～診断コネクタ間の配線状態や、車載コントロールユニットの状態により、診断できない場合があります。また、車両側の通信仕様は予告なく変更されることがあり、診断ができなくなる場合もございますので、ご注意ください。

※ 上記以外の車両でOBD2通信をサポートしている車両についてはOBD2診断のみをサポートします。

1.2.　診断項目

　本アプリケーションは、「1.1.対象車種」に記載の条件を満たすコントロールユニットに対して、下記の診断機能をサポートしています。

＜システム別サポート診断機能＞

診断機能	診断システム					参照項
	エンジン	AT	ABS	エアバッグ	OBD2	
全システムのダイアグコード点検	○	○	○	○	○	3.3
ダイアグコードの点検	○	○	○	○	○	3.7.1
ダイアグコードのクリア	○	○	○	○	○	3.7.2
フリーズフレームデータ表示	○	○			○	3.7.3
エンジンマウント系詳細ダイアグコードの点検	○					3.8
仮コードの点検	○	○			○	3.9
現在のデータ表示/保存	○	○	○		○	3.10
メーター表示	○				○	3.11
ECUリセット	○	○				3.13
センサキャリブレーション			○			3.14
OPDS初期化				○		3.15
作動履歴コード表示				○		3.16
故障履歴情報表示				○		3.17

1.3.　使用言語

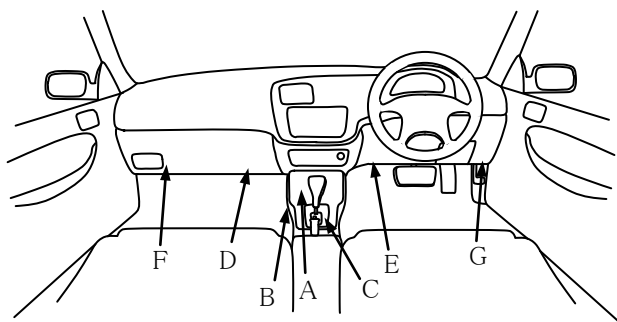
　本アプリケーションは、日本語のみを対象としています。

2. 準備

2.1. 接続

(1) 診断車両が対象車種(「1.1.対象車種」参照)であることを確認してください。

注意	対象車種以外の車両に使用すると、車両に悪影響をおよぼす恐れがあります。

(2) 診断機の電源がOFFであることを確認し、CFカードを挿入してください。
(3) 診断機にダイアグケーブルを接続してください。
(4) 車両のイグニッションスイッチがOFFであることを確認し、下図A～Gまたは整備マニュアルを参考にして車両側診断コネクタにダイアグケーブルを接続してください。

(5) 車両のイグニッションスイッチをONにします。

※ ライフ4WD、エディックス、ゼストでABSの診断を行う場合は、故障診断機のファームウェアのバージョンを1.8.1以上にアップデートしてください。

2.2. 各種設定

故障診断を実行する前に「ダイアグモニタメニュー」より「ダイアグモニタの設定」を実行して、以下の項目を設定してください。設定方法等に関しては、診断機本体の取扱説明書をご参照ください。

項目	設定内容
日付・時刻の設定	日付時刻が違っていたら正しく設定しなおしてください。
キープッシュ音	キーを押した時のプッシュ音を設定してください。
単位の設定	国際単位系であるSI単位に設定してください。 [SI単位] 速度 km/h 温度 ℃ 圧力 kPa 空気流量 g/s

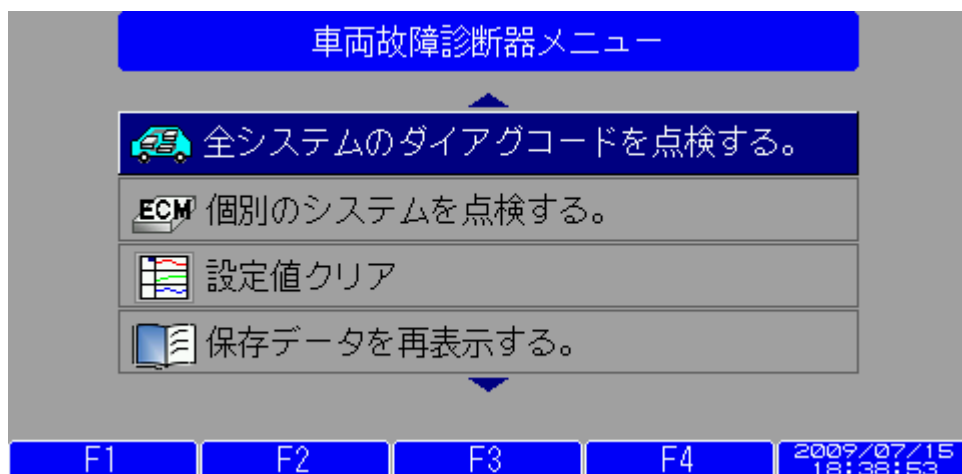
3.　操作

3.1.　車両故障診断/点検メニュー

「ダイアグモニタメニュー」で「車両故障診断/点検をする」をYESで選択すると、車両故障診断メニューを表示します。

このメニューで「ホンダ車の故障診断」をYESで選択してください。

「ホンダ車の故障診断」を選択すると「アプリケーションロード中… しばらくお待ちください」と表示されます。CFカード内のアプリケーションを実行する準備を行なっていますので、電源を切らずに数秒間お待ちください。

3.2.　車両故障診断メニュー

メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

メニュー項目	参照項
全システムのダイアグコードを点検する	「3.4.車種選択メニュー」
個別のシステムを点検する	「3.4.車種選択メニュー」
設定値クリア	「3.19.設定値クリア」
保存データを再表示する	「3.20.保存データの表示」
画面保存データを再表示する	「3.21.画面保存データの表示」

3.3. 全システムのダイアグコード点検

本アプリケーションが対応する全システムと車両通信を行い、各システムが記憶している現在のダイアグコード（故障コード）を取得して一覧表示します。

全システムのダイアグコード表示

システム	検出コード
エンジン	06-02 水温ｾﾝｻ 電圧高い
エンジン	10-02 吸気温度ｾﾝｻ 電圧高い
A／T	DTC無し
ABS	DTC無し
エアバッグ	DTC無し
OBD2	P0118 水温ｾﾝｻ 電圧高い
OBD2	P0113 吸気温度ｾﾝｻ電圧高い

F1 F2 F3 F4 2007/07/21 10:51:13

取得したダイアグコードは、検出したシステム名を「システム」欄に表示し、コードと補足説明を「検出コード」の欄に表示します。 ダイアグコードが発生していない場合は「DTC無し」と表示されます。 また、車両に搭載されていない等の理由で車両通信に失敗したシステムは「通信不能」と表示されます。

＜操作方法＞

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。 すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面がスクロールします。
C	前の画面に戻ります。
F4	画面のハードコピーを保存します。

※　取得されたダイアグコードによっては補足説明がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

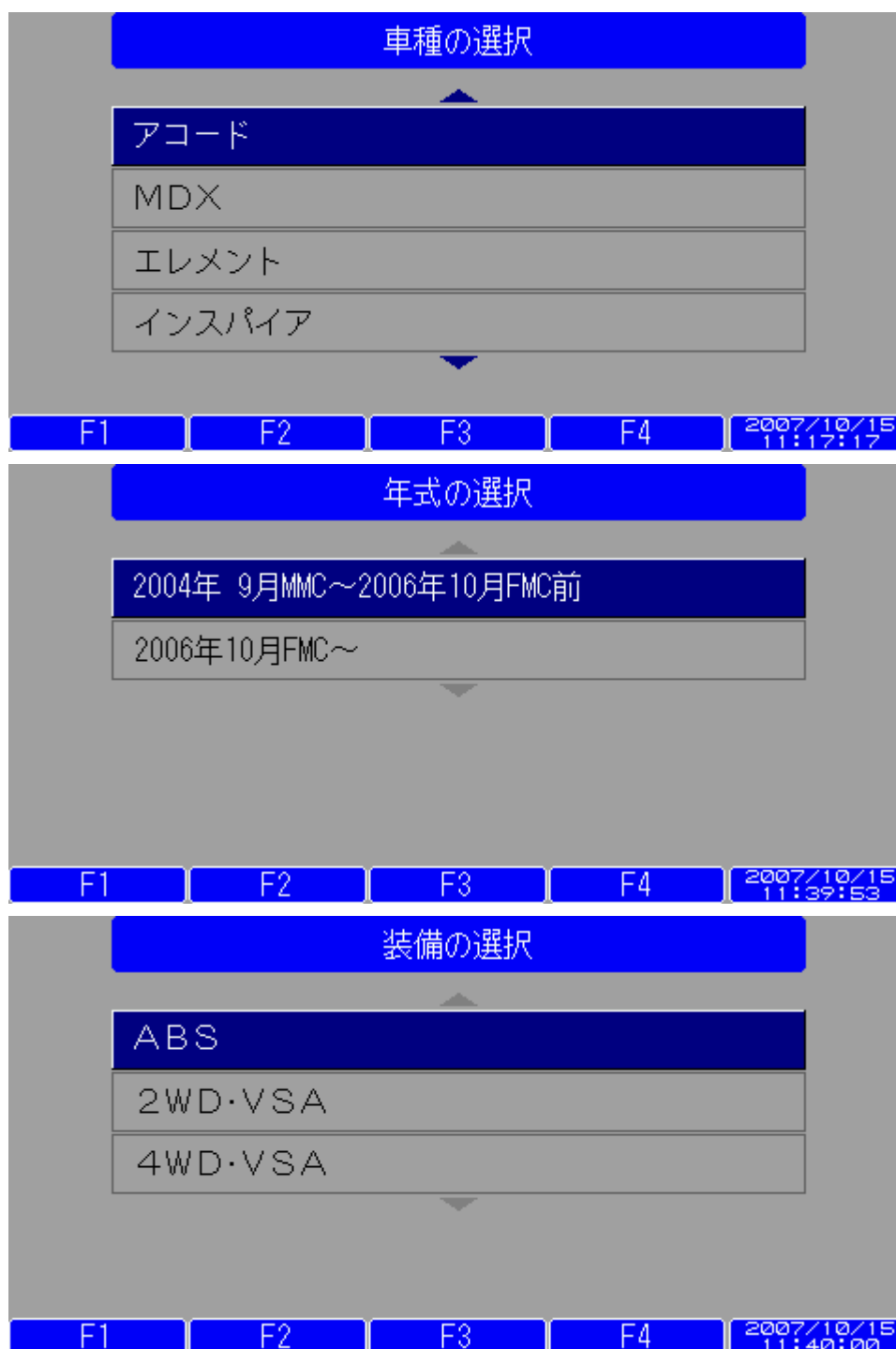
3.4.　車種選択メニュー

診断対象車種の車種名、年式、装備を選択してください。

誤った車種名、年式、装備を選択すると、正しい診断結果が得られない場合がありますので注意してください。

年式や装備選択を行なう必要がない一部の車種では、年式の選択メニューや装備の選択メニューは表示されません。

車種名、年式、装備を選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

車両故障診断メニュー項目	参照項
全システムのダイアグコードを点検する	「3.3全システムのダイアグコード点検」
個別のシステムを点検する	「3.5システム選択メニュー」

3.5. システム選択メニュー

故障診断を行なうシステムをYESで選択してください。
「3.4.車種選択メニュー」で選択された車種によってはサポートしていないためメニューに表示されないシステムがあります。

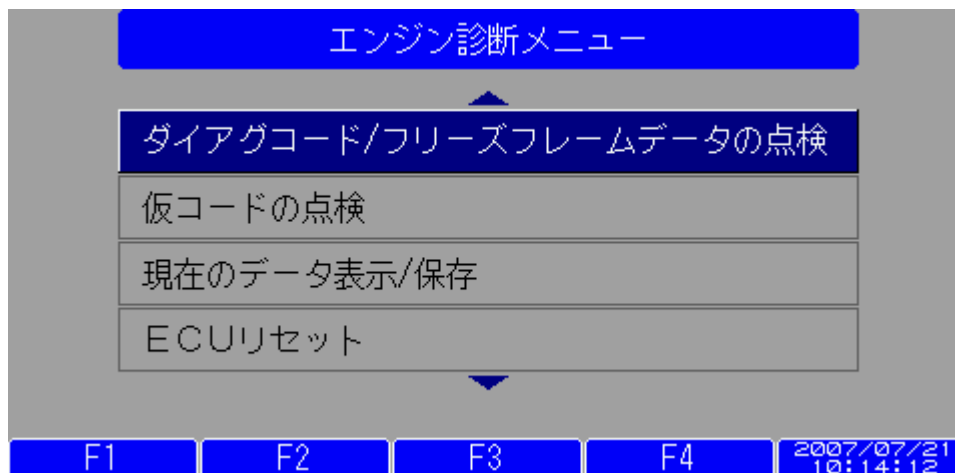
システムを選択すると、故障診断を実行するための準備として車両のシステムと初期化通信を行ないます。
選択したシステムと初期化通信に成功した場合、「3.6.システム診断メニュー」を表示します。

初期化通信でエラーが発生した場合、エラー画面を表示します。この場合、以下の原因が考えられますので確認してください。

① 故障診断コネクタの接触不良およびケーブル断線の確認。
② ダイアグケーブルとの接続の確認。
③ 対象車種の確認。

3.6.　システム診断メニュー

「3.5.システム選択メニュー」で選択したシステムで診断が可能な機能を表示します。

※　各システムの診断機能は、「1.2.診断項目」をご参照ください。

メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

メニュー項目	参照項
ダイアグコード/フリーズフレームデータの点検	「3.7.ダイアグコード/フリーズフレームデータの点検」
エンジンマウント系詳細ダイアグコードの点検	「3.8.エンジンマウント系詳細ダイアグコードの点検」
仮コードの点検	「3.9.仮コードの点検」
現在のデータ表示/保存	「3.10.現在のデータ表示/保存」
メーター表示	「3.11.メーター表示」
ECUリセット	「3.13. ECUリセット」
センサキャリブレーション	「3.14.センサキャリブレーション」
OPDS初期化	「3.15. OPDSユニット初期化」
故障履歴情報表示	「3.16.作動履歴コード表示画面」
作動履歴コード表示	「3.17. 故障履歴情報表示」
OBDステータス	「3.18.OBDステータス」
保存データを再表示する	「3.20.保存データの表示」

なお、車両側のシステムが選択した機能をサポートしていない場合は、「該当項目なし」画面を表示します。

3.7. ダイアグコード/フリーズフレームデータの点検

3.7.1. ダイアグコードの点検

車両が記憶しているダイアグコード（故障コード）を取得し表示します。「検出コード」の欄に表示されているダイアグコードにカーソルを移動させると、そのダイアグコードの検出条件が画面左の「検出条件」の欄に表示されます。
ダイアグコードが発生していない場合、「DTC無し」を表示します。

<操作方法>

↑/↓	すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面のスクロールをします。
YES/C	前の画面に戻ります。
S	ファンクションキーの機能を示す表示が切り替わります。 F1 DTC消去 | F2 ﾌﾘｰｽﾞﾌﾚｰﾑﾃﾞｰﾀ表示 | F3 | F4 画面保存 ⇕ F1 保存 | F2 | F3 | F4
F1～F4	次項の「ファンクションキー」をご参照ください。

<ファンクションキー>

DTC消去	「3.7.2.ダイアグコードのクリア」
フリーズフレームデータ表示	「3.7.3.フリーズフレームデータ表示」
画面保存	画面のハードコピーを保存します。
保存	「3.7.4.データ保存」

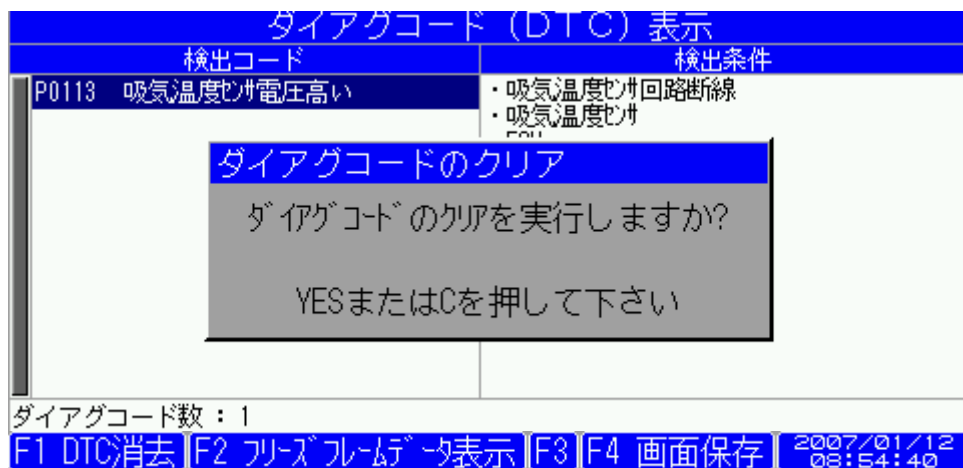
※ 取得されたダイアグコードによっては補足説明や検出条件がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

<操作方法>

↑/↓	すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面のスクロールをします。
F1	「3.7.2.ダイアグコードのクリア」
F2	「3.7.3.フリーズフレームデータ表示」
F4	画面のハードコピーを保存します。
YES/C	前の画面に戻ります。

※ 取得されたダイアグコードによっては補足説明や検出条件がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

3.7.2.　ダイアグコードのクリア

車両に記憶されているダイアグコード、フリーズフレームデータ、OBDステータスをクリアします。

<操作方法>

YES	ダイアグコードのクリアを実行します。
C	処理を中止し「3.7.1.ダイアグコードの点検」に戻ります。

※　エンジンがかかっている状態でダイアグコードのクリアを実行すると通信エラーが発生し、クリアできない場合があります。その場合はエンジンを停止（イグニッションスイッチはON状態）してから、再度ダイアグコードのクリアを実行してください。

3.7.3. フリーズフレームデータ表示

故障(ダイアグコード)が発生した時の車両の動作状態を保存したデータ(フリーズフレームデータ)を取得し表示します。

項目	値
ﾌﾘｰｽﾞﾌﾚｰﾑｺｰﾄﾞ	P0113
A/F制御 #1	OPEN初期
負荷	0.0 %
ｴﾝｼﾞﾝ水温	42 °C
A/F補正値 #1	0.0 %
A/F学習値 #1	0.0 %
吸入管絶対圧力	737 mmHg
ｴﾝｼﾞﾝ回転数	0 rpm
車速	0 km/h

F1 保存	F2	F3	F4 画面保存	2007/01/12 08:44:10

<操作方法>

↑/↓	すべてのデータが1画面で表示しきれない場合、画面のスクロールをします。
C	前の画面に戻ります。
F1	「3.7.4.データ保存」
F4	画面のハードコピーを保存します。

3.7.4. データ保存

CFカードのデータ保存エリアに保存することができます。保存されたデータはいつでも参照することができます。

データ保存確認画面

[DTC]

[フリーズフレーム]

項目	値
ﾌﾘｰｽﾞﾌﾚｰﾑｺｰﾄﾞ	P0113
A/F制御 #1	OPEN初期
負荷	0.0 %
ｴﾝｼﾞﾝ水温	42 °C
A/F補正値 #1	0.0 %
A/F学習値 #1	0 %
吸入管絶対圧力	7 mmHg
ｴﾝｼﾞﾝ回転数	0 rpm
車速	0 km/h

フリーズフレームデータ表示
データを保存しますか？
YESまたはNOを押して下さい

F1 保存 | F2 | F3 | F4 画面保存 | 2008/09/16 09:52:27

<操作方法>

YES	データ保存を実行します。
NO	データ保存を中止し、実行前の画面に戻ります。

上記画面でYESを押すとデータ保存が実行されます。

※　保存中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。

また、データ保存が完了すると下記の確認メッセージが表示されます。

データ保存完了画面

[DTC]

[フリーズフレーム]

<操作方法>

YES	「データ保存」を実行した画面に戻ります。

3.8.　エンジンマウント系詳細ダイアグコードの点検

車両が記憶しているエンジンマウントシステム関連のダイアグコード（故障コード）を取得し表示します。
ダイアグコードが発生していない場合、「DTC無し」を表示します。

<操作方法>

↑/↓	すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面のスクロールをします。
F4	画面のハードコピーを保存します。
YES/C	前の画面に戻ります。

※　取得されたダイアグコードによっては補足説明や検出条件がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

3.9.　仮コードの点検

車両が記憶している仮コード(ペンディングコード)を取得し表示します。「検出コード」の欄に表示されている仮コードにカーソルを移動させると、その仮コードの検出条件が画面左の「検出条件」の欄に表示されます。
ダイアグコードが発生していない場合、「仮コード無し」を表示します。

<操作方法>

↑/↓	すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面のスクロールをします。
YES/C	前の画面に戻ります。
S	ファンクションキーの機能を示す表示が切り替わります。 F1 DTC消去 / F2 / F3 / F4 画面保存 ⇕ F1 保存 / F2 / F3 / F4
F1～F4	次項の「ファンクションキー」をご参照ください。

<ファンクションキー>

画面保存	画面のハードコピーを保存します。
保存	「3.7.4.データ保存」

※　取得された仮コードによっては補足説明や検出条件がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

※　ダイアグコードには1回のドライビングサイクル（イグニッションスイッチON～走行～イグニッションスイッチOFF）における故障検知で警告灯を点灯させるコードと、連続した2回のドライビングサイクルで故障検知した場合に初めて警告灯を点灯させるコードがあります。仮コードとは、その2回連続故障検知で警告灯を点灯させるトラブルコードでの1回目の故障検知時に記憶される故障情報のことです。

3.10.　現在のデータ表示/保存

メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

メニュー項目	参照項
通常データモニタ	「3.10.1.データ表示」を実行します。
選択項目読出し	「3.10.9.選択項目読出し」を実行します。
C	前の画面に戻ります。

3.10.1. データ表示

データ表示には、下図のように数値21データ表示、数値10データ表示、グラフ1表示およびグラフ2表示の4種類の表示形式があります。

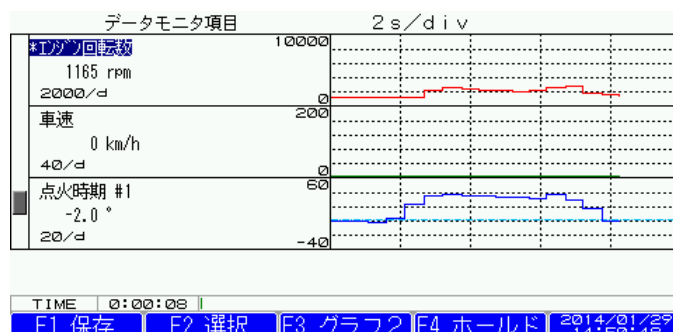
数値21データ表示

数値10データ表示

項目	値	最小	平均	最大
* ｴﾝｼﾞﾝ回転数	981 rpm	981	1004	1030
車速	0 km/h	0	0	0
点火時期 #1	-3.5 °	-4.5	-3.8	-3.5
吸気温度	17 °C	17	17	17
ｽﾛｯﾄﾙ開度	10 %	10	10	10
O2ｾﾝｻ #11	0.820 V	0.820	0.832	0.855
A/F補正値 #11	-2.3 %	-2.3	-1.3	0.0
O2ｾﾝｻ #11	ｻﾎﾟｰﾄ	-	-	-
O2ｾﾝｻ #12	ｻﾎﾟｰﾄなし	-	-	-
O2ｾﾝｻ #13	ｻﾎﾟｰﾄなし	-	-	-

TIME 0:00:02

F1 保存　F2 選択　F3 グラフ　F4 ホールド　2014/01/29 14:50:37

グラフ1表示

グラフ2表示

また、データ表示には、「ランモード」、「ホールドモード」の2つの表示モードがあります。

ランモード	車両よりリアルタイムに取得したダイアグデータを表示するモードです。 操作方法に関しては「3.10.2.ランモード」をご参照ください。
ホールドモード	ランモードによって取得し記憶されたデータを以前にさかのぼって表示することができるモードです。 操作方法に関しては「3.10.3.ホールドモード」をご参照ください。

3.10.2. ランモード

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
YES	選択の設定/解除を行ないます。
S	ファンクションキーの機能を示す表示が切り替わります。 数値21データ表示時 F1 保存 | F2 選択 | F3 数値10 | F4 ホールド ⇕ F1 クリア | F2 トリガ | F3 | F4 画面保存 ⇕ F1 全選択 | F2 選択保存 | F3 | F4 ホールド 数値10データ表示時 F1 保存 | F2 選択 | F3 グラフ | F4 ホールド ⇕ F1 クリア | F2 トリガ | F3 | F4 画面保存 ⇕ F1 全選択 | F2 選択保存 | F3 | F4 ホールド グラフ1表示時 F1 保存 | F2 選択 | F3 グラフ２ | F4 ホールド ⇕ F1 クリア | F2 トリガ | F3 レンジ | F4 画面保存 ⇕ F1 全選択 | F2 選択保存 | F3 | F4 ホールド グラフ2表示時 F1 保存 | F2 選択 | F3 数値21 | F4 ホールド ⇕ F1 クリア | F2 トリガ | F3 レンジ | F4 画面保存 ⇕ F1 全選択 | F2 選択保存 | F3 | F4 ホールド
C	「3.10.現在のデータ表示/保存」に戻ります。
F1～F4	次項の「ファンクションキー」をご参照ください。

<ファンクションキー>

保存	ランモードで記憶されたデータを保存します。詳細は「3.10.7.データ保存」をご参照ください。
選択	YESで選択され「*」が付けられた項目のみに絞り込んで表示します。
数値21	数値21データ表示に切り替えます。
数値10	数値10データ表示に切り替えます。
グラフ	グラフ1表示に切り替えます。
グラフ2	グラフ2表示に切り替えます。
レンジ	グラフ1表示またはグラフ2表示時、レンジの変更が可能となります。操作方法に関しては「3.10.4.レンジ変更」をご参照ください。
ホールド	ホールドモードに移行します。
トリガ	トリガ設定を実行します。詳細は「3.10.5.トリガ設定」をご参照ください。
クリア	現在選択中の項目をすべて選択解除にします。
画面保存	画面のハードコピーを保存します。
全選択	全選択モードに切り替えます。
選択保存	現在選択中の項目を保存します。

3.10.3. ホールドモード

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
←	前(過去)のデータを表示します。 グラフ表示の場合、グラフカーソルが左に移動します。
→	次のデータを表示します。 グラフ表示の場合、グラフカーソルが右に移動します。
YES	選択の設定/解除を行ないます。
S	数値21データ表示時 F1 ＜　F2 ＞　F3　F4 スタート ⇳ F1 保存　F2 選択　F3 数値10　F4 スタート ⇳ F1 クリア　F2 トリガ　F3　F4 画面保存 ⇳ F1 全選択　F2 選択保存　F3　F4 スタート 数値10データ表示時 F1 保存　F2 選択　F3 グラフ　F4 スタート ⇳ F1 クリア　F2 トリガ　F3　F4 画面保存 ⇳ F1 全選択　F2 選択保存　F3　F4 スタート グラフ1表示時 F1 保存　F2 選択　F3 グラフ２　F4 スタート ⇳ F1 クリア　F2 トリガ　F3 レンジ　F4 画面保存 ⇳ F1 全選択　F2 選択保存　F3　F4 スタート グラフ2表示時 F1 保存　F2 選択　F3 数値21　F4 スタート ⇳ F1 クリア　F2 トリガ　F3 レンジ　F4 画面保存 ⇳ F1 全選択　F2 選択保存　F3　F4 スタート
C	「3.10.現在のデータ表示/保存」に戻ります。
F1～F4	次項の「ファンクションキー」をご参照ください。

〈ファンクションキー〉

保存	現在ホールド中のデータを保存します。詳細は「3.10.7.データ保存」をご参照ください。
選択	YESで選択され「*」が付けられた項目のみに絞り込んで表示します。
数値21	数値21データ表示に切り替えます。
数値10	数値10データ表示に切り替えます。
グラフ	グラフ1表示に切り替えます。
グラフ2	グラフ2表示に切り替えます。
レンジ	グラフ表示時、レンジの変更が可能となります。操作方法に関しては「3.10.4.レンジ変更」をご参照ください。
スタート	ランモードに移行します。
トリガ	トリガ設定を実行します。詳細は「3.10.5.トリガ設定」をご参照ください。
クリア	現在選択中の項目をすべて選択解除にします。
画面保存	画面のハードコピーを保存します。
全選択	全選択モードに切り替えます。
選択保存	現在選択中の項目を保存します。

3.10.4. レンジ変更

グラフ表示時、ファンクション「レンジ」を実行すると、時間軸レンジ、項目レンジを変更することができます。

3.10.4.1.時間軸レンジ変更

グラフ表示の時間軸レンジ(横軸レンジ)を変更できます。

<操作方法>

←/→	レンジの変更を行ないます。
YES	変更したレンジを確定し、「レンジ」が実行されたモードを再実行します。
C	レンジ変更を中止し、「レンジ」が実行されたモードを再実行します。
F3	「3.10.4.2.項目レンジ変更」を実行します。

3.10.4.2.項目レンジ変更

グラフ表示の項目レンジ(縦軸レンジ)を変更できます。

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。 レンジが表示されていない項目は項目名のみのカーソル移動となりレンジの変更はできません。
←/→	カーソルのレンジ値が増減します。 キーを押し続けるとレンジ値の変更量が増加します。 カーソルのレンジ値が初期値から変更されている場合は文字色が水色で表示されます。
YES	変更したレンジを確定し、「レンジ」が実行されたモードを再実行します。
C	レンジ変更を中止し、「レンジ」が実行されたモードを再実行します。
F3	「3.10.4.1.時間軸レンジ変更」を実行します。
F4	カーソルのレンジ値が初期値に戻ります。 カーソルの文字色が白色で表示されます。

3.10.5. トリガ設定

データ表示では、ランモード時「エンジン回転速度が何回転以上になった時」(レベルトリガ)等の条件で自動的にデータをホールドすることができます。

トリガを設定するには、数値データ表示もしくはグラフ表示でファンクション「トリガ」を実行してください。

<操作方法>

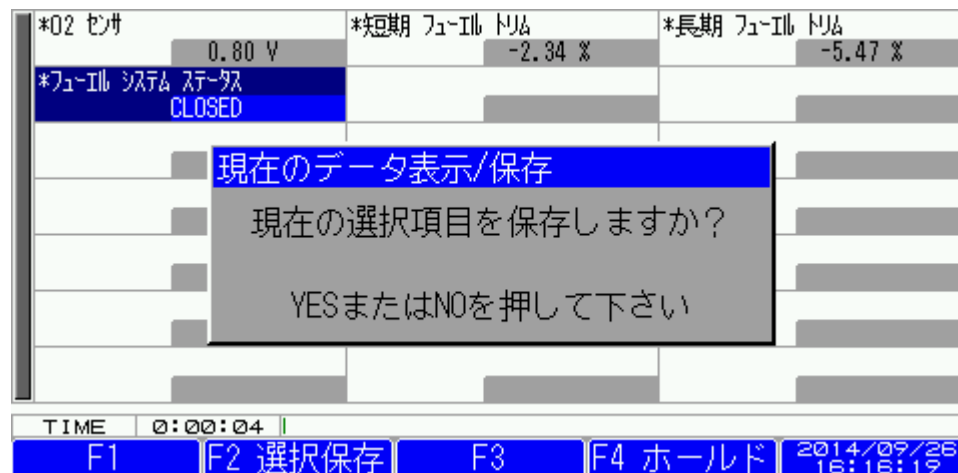
↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
←/→	設定の変更を行ないます。
YES	設定したトリガを確定し、「トリガ」が実行されたモードを再実行します。
C	トリガ設定を中止し、「トリガ」が実行されたモードを再実行します。

<トリガ設定値>

トリガ	OFF	トリガの設定を解除します。
	レベル	レベルトリガ。「項目」の値が「レベル」を「スロープ条件」でまたいだ際にトリガとします。
項目	レベルトリガの対象となる項目を選択します。 ランモード時画面に表示されている項目と画面外で選択されている項目が選択できます。	
スロープ条件	↑	レベル値以下からレベル値を超えた場合にトリガとします。
	↓	レベル値以上からレベル値未満になった場合にトリガとします。
	↑/↓	レベル値をまたいだ場合すべてをトリガとします。
レベル	レベルトリガのレベル値を設定します。	
表示ポイント	1/5	ホールド時トリガ点を画面上の時間軸1/5点にして表示します。
	2/5	ホールド時トリガ点を画面上の時間軸2/5点にして表示します。
	3/5	ホールド時トリガ点を画面上の時間軸3/5点にして表示します。
	4/5	ホールド時トリガ点を画面上の時間軸4/5点にして表示します。
ホールド時間	0s	トリガが発生したらすぐにホールドします。
	30s	トリガが発生してから30秒後にホールドします。
	60s	トリガが発生してから60秒後にホールドします。

3.10.6. 選択項目保存

選択された項目をCFカードのデータ保存エリアに保存することができます。保存された選択項目はいつでも参照することができます。

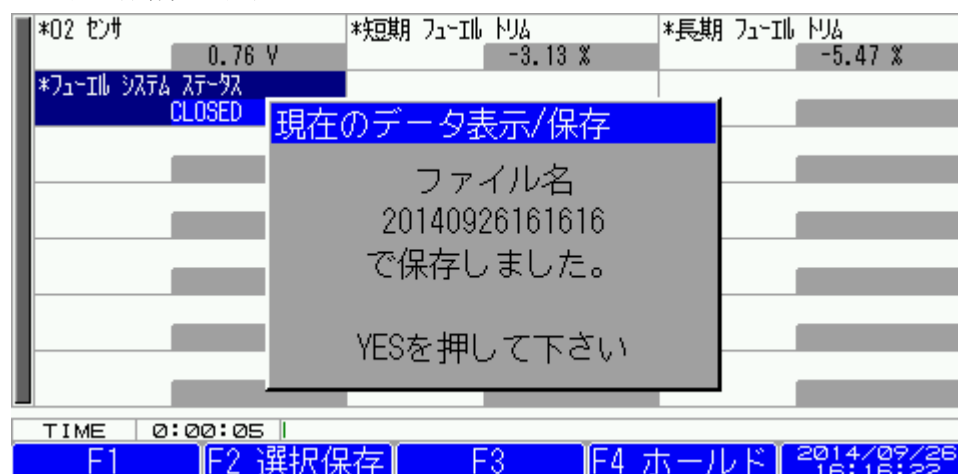
選択項目保存確認画面

〈操作方法〉

YES	選択項目保存を実行します。
NO	選択項目保存を中止し、実行前の画面に戻ります。

上記画面でYESを押すと選択項目保存が実行されます。

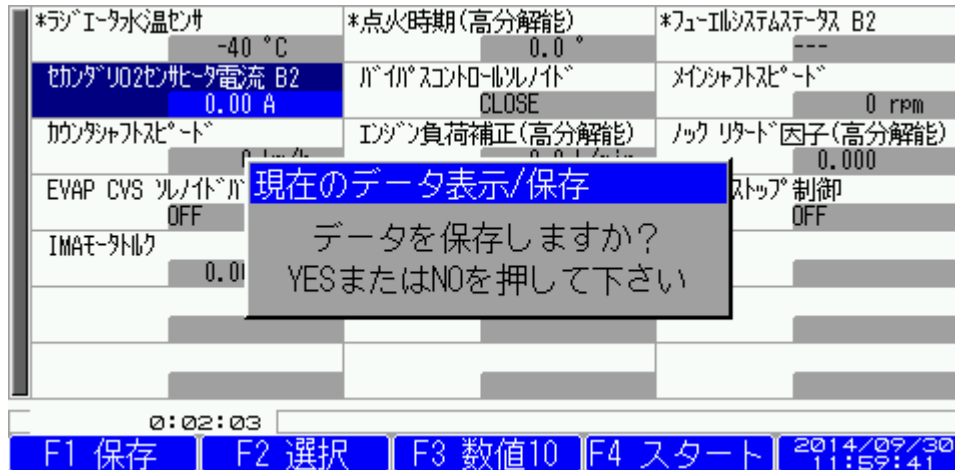
※　保存中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。

また、選択項目保存が完了すると下記の確認メッセージが表示されます。

選択項目保存完了画面

〈操作方法〉

YES	「選択項目保存」が実行された画面に戻ります。

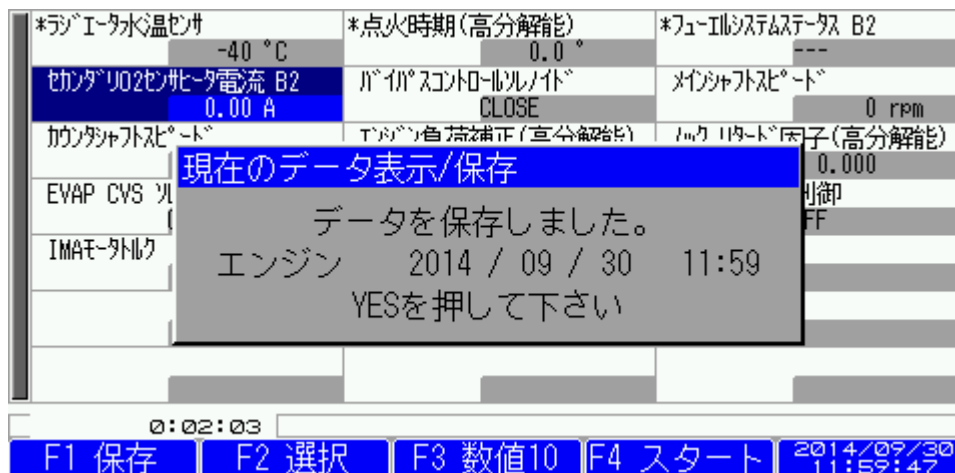
3.10.7. データ保存

ランモードによって取得したデータを、CFカードのデータ保存エリアに保存することができます。保存されたデータはいつでも参照することができます。

<操作方法>

YES	データ保存を実行します。
NO	データ保存を中止し、「データ保存」が実行されたモードを再実行します。

上記画面でYESを押すとデータ保存が実行されます。

※ 保存中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。

また、データ保存が完了すると下記の確認メッセージが表示されます。

<操作方法>

YES	「データ保存」が実行されたモードを再実行します。

3.10.8. 全選択モード

全選択モードと通常モードでは下図のように通信対象が変更になります。

通信対象

通常モード	表示項目+YES キーによって*マークが付き選択された項目
全選択モード	全項目

※ 全選択モードでは通信対象が増える為、サンプリングスピードが通常モードに比べ遅くなります。

※ 全選択モードではYESキーによって*マークが付いた項目を選択絞込すると、通常モードと同様に選択項目が通信対象となります。

F1 全解除で通常モードに戻れます。

全選択時: | F1 全解除 | F2 選択保存 | F3 | F4 ホールド |

⇕

通常: | F1 全選択 | F2 選択保存 | F3 | F4 ホールド |

全選択時:

F1 全解除	全選択モードから通常モードに切り替えます。

↕

通常:

F1 全選択	通常モードから全選択モードに切り替えます。

3.10.9. 選択項目読出し

「データ表示」によって選択保存されたデータを再度表示する場合に実行します。

No	ファイル名	ファイル作成日時
1	20140108193057	2014/01/08 19:30:57
2	20140108193407	2014/01/08 19:34:07
3	20140108193507	2014/01/08 19:35:07
4	20140108193514	2014/01/08 19:35:14
5	20140108193528	2014/01/08 19:35:28
6	20140108193546	2014/01/08 19:35:46
7	20140108194821	2014/01/08 19:48:21
8	20140109120056	2014/01/09 12:00:56
9	20140109120206	2014/01/09 12:02:06
10	20140109162441	2014/01/09 16:24:41
11	20140109210321	2014/01/09 21:03:21

F1 削除 | F2 | F3 | F4 | 2014/01/11 10:02:18

〈操作方法〉

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
←	ページ移動(ページダウン)を行います。
→	ページ移動(ページアップ)を行います。
YES	カーソル上の保存データを読込み、「3.10.1データ表示」へ移行します。
C	前の画面に戻ります。
S	カーソル上のデータを選択/非選択状態にします。
F1	選択項目が存在する場合、選択されているファイルを削除します。 選択項目が存在しない場合、カーソル上のファイルを削除します。

3.11. メーター表示

特定の項目をリアルタイムにメーター形式で表示します。

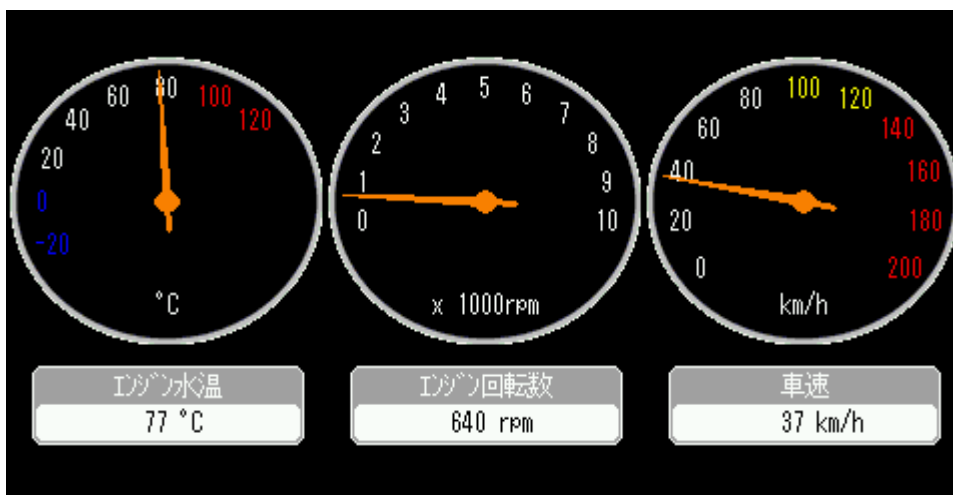
3.11.1. メーター表示項目選択メニュー

メーター表示の対象項目を一覧から選択してください。

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
YES	カーソル上の項目に対して「3.11.2.メーター表示」を実行します。
C	前の画面に戻ります。

3.11.2. メーター表示

「3.11.1.メーター表示項目選択メニュー」で選択された項目に対してメーター表示します。

<操作方法>

C	前の画面に戻ります。
F4	画面のハードコピーを保存します。

3.12. アクティブテスト

本機能は、ダイアグコードの点検や現在のデータ表示などの診断結果に基づき、故障原因を追求する為に活用する機能です。テスト対象アクチュエータを車両ECUの指令(出力)から切り離し、診断機から強制的に駆動することで、作動良否点検などを行います。

警告	**アクティブテストは、対象車両の整備マニュアルによりテスト対象アクチュエータの内容を十分理解した上で行ってください。** **使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。**

注意	**アクティブテストの項目によっては実行後、コントロールユニットにダイアグコードが記録される場合があります。テスト実行前ならびに実行後に「ダイアグコードの点検」でコントロールユニットに記録されているされているダイアグコードを確認してください。** ※ アクティブテストの実行によって発生したダイアグコードは「ダイアグコードのクリア」によって消去してください。

3.12.1. アクティブテストメニュー

診断車両がサポートしているテスト項目をメニュー表示します。本アプリケーションがサポートしているテスト項目は「4.アクティブテスト項目一覧」をご参照ください。

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
YES	「3.12.2.アクティブテスト実行」を実行します。
C	処理を中止し、故障診断メニューに戻ります。

3.12.2. アクティブテスト実行

アクティブテストメニューで実行したい項目を選択すると、各項目でのテスト値入力画面として「3.10 現在のデータ表示/保存」と同じような画面が表示されます。 この画面で、選択したアクチュエータを駆動させるテスト値（目標値、状態）を入力してください。 アクティブテストメニューの項目によって、次の2つの設定方法があります。

デフォルトの状態で割り付けられているファンクションF1～F3以外は通常のデータ表示と同じです。操作方法は、「3.10 現在のデータ表示/保存」をご参照ください。 なお、Cキー入力時は「3.12.1. アクティブテストメニュー」に戻ります。

(1) 初期/強制駆動無効状態

この状態では、アクチュエータは強制駆動されておりません。

［数値設定タイプ］

項目	値	最小	平均	最大
ｴﾝｼﾞﾝ回転	0 rpm	0	0	0
ｽﾛｯﾄﾙ開度ｾﾝｻ	16 %	16	16	16
相対ｽﾛｯﾄﾙ開度ｾﾝｻ	6.27 %	6.27	6.27	6.27
水温ｾﾝｻ	0.82 V	0.82	0.82	0.82
水温ｾﾝｻ	78 °C	78	78	78
吸気温度ｾﾝｻ	1.84 V	1.84	1.84	1.84
吸気温度ｾﾝｻ	50 °C	50	50	50
吸気圧力ｾﾝｻ	0.00 V	0.00	0.00	0.00
吸気圧力ｾﾝｻ	0 kPa	0	0	0
大気圧力ｾﾝｻ	0.00 V	0.00	0.00	0.00

設定項目 DBWテスト(開度制御) 設定値 0.00 °
TIME 0:00:02
F1 減少 F2 増加 F3 ｱｸﾃｨﾌﾞ 実行 F4 ホールド 2013/07/17 16:25:45

［状態設定タイプ］

項目	値	最小	平均	最大
ｴﾝｼﾞﾝ回転	0 rpm	0	0	0
ｽﾛｯﾄﾙ開度ｾﾝｻ	16 %	16	16	16
相対ｽﾛｯﾄﾙ開度ｾﾝｻ	6.27 %	6.27	6.27	6.27
水温ｾﾝｻ	0.82 V	0.82	0.82	0.82
水温ｾﾝｻ	78 °C	78	78	78
吸気温度ｾﾝｻ	1.84 V	1.84	1.84	1.84
吸気温度ｾﾝｻ	50 °C	50	50	50
吸気圧力ｾﾝｻ	0.00 V	0.00	0.00	0.00
吸気圧力ｾﾝｻ	0 kPa	0	0	0
大気圧力ｾﾝｻ	0.00 V	0.00	0.00	0.00

設定項目 VTECソレノイドバルブ強制駆動 設定値 OFF
TIME 0:00:03
F1 << F2 >> F3 ｱｸﾃｨﾌﾞ 実行 F4 ホールド 2013/07/17 16:28:17

<操作方法>

F1/F2	［数値設定タイプ］ テスト値を増減します。 増減する値はテスト項目によって異なります。 ［状態設定タイプ］ 状態を切換えます。
F3	設定されたテスト値でアクチュエータ強制駆動を開始します。
C	設定を中止し、「3.12.1. アクティブテストメニュー」に戻ります。

(2) 強制駆動中

［数値設定タイプ］

項目	値	最小	平均	最大
ｴﾝｼﾞﾝ回転	0 rpm	0	0	0
ｽﾛｯﾄﾙ開度ｾﾝｻ	16 %	16	16	16
相対ｽﾛｯﾄﾙ開度ｾﾝｻ	6.27 %	6.27	6.27	6.27
水温ｾﾝｻ	0.82 V	0.82	0.82	0.82
水温ｾﾝｻ	78 °C	78	78	78
吸気温度ｾﾝｻ	1.84 V	1.84	1.84	1.84
吸気温度ｾﾝｻ	50 °C	50	50	50
吸気圧力ｾﾝｻ	0.00 V	0.00	0.00	0.00
吸気圧力ｾﾝｻ	0 kPa	0	0	0
大気圧力ｾﾝｻ	0.00 V	0.00	0.00	0.00

設定項目 DBWテスト(開度制御) 設定値 0.00 °
TIME 0:00:14
F1 F2 F3 ｱｸﾃｨﾌﾞ 中止 F4 ホールド 2013/07/17 16:25:57

［状態設定タイプ］

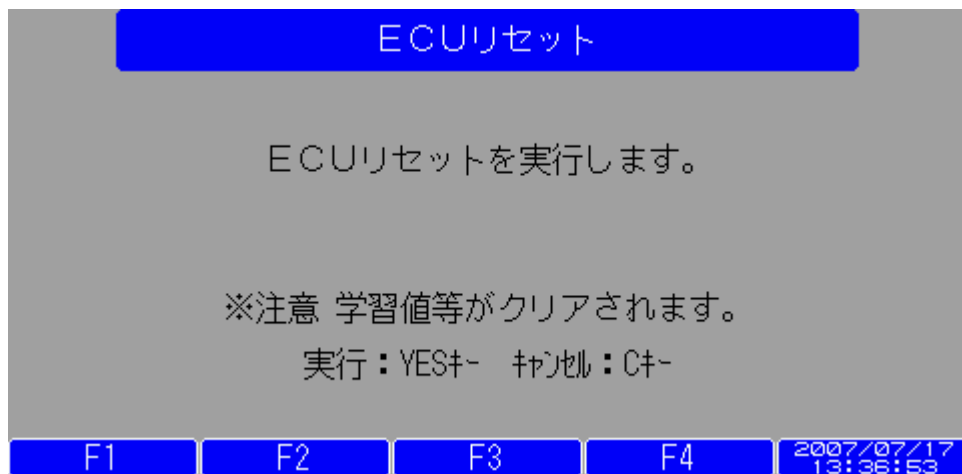
項目	値	最小	平均	最大
ｴﾝｼﾞﾝ回転	0 rpm	0	0	0
ｽﾛｯﾄﾙ開度ｾﾝｻ	16 %	16	16	16
相対ｽﾛｯﾄﾙ開度ｾﾝｻ	6.27 %	6.27	6.27	6.27
水温ｾﾝｻ	0.82 V	0.82	0.82	0.82
水温ｾﾝｻ	78 °C	78	78	78
吸気温度ｾﾝｻ	1.84 V	1.84	1.84	1.84
吸気温度ｾﾝｻ	50 °C	50	50	50
吸気圧力ｾﾝｻ	0.00 V	0.00	0.00	0.00
吸気圧力ｾﾝｻ	0 kPa	0	0	0
大気圧力ｾﾝｻ	0.00 V	0.00	0.00	0.00

設定項目 VTECソレノイドバルブ強制駆動 設定値 OFF
TIME 0:00:12
F1 F2 F3 ｱｸﾃｨﾌﾞ 中止 F4 ホールド 2013/07/17 16:28:26

強制駆動実行中に「F2 アクティブ中止」を押すと、アクチュエータの強制駆動を中止し、強制駆動無効状態に戻ります。

3.13. ECUリセット

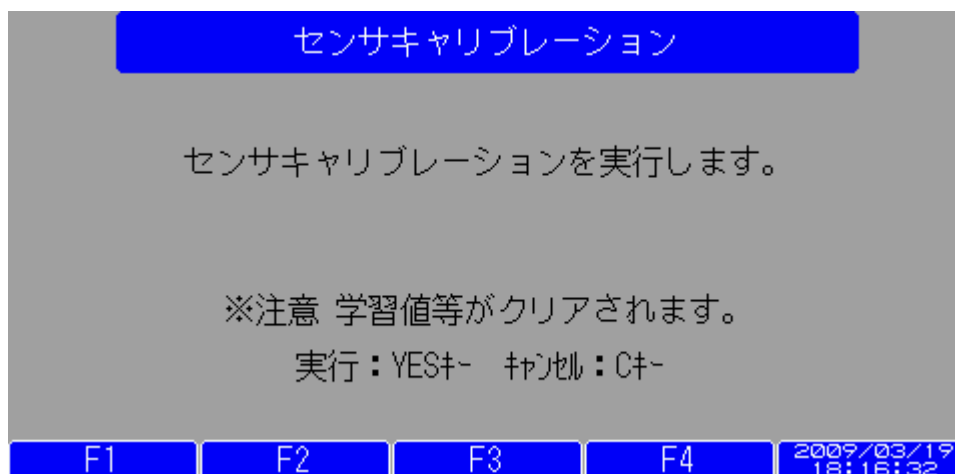
DTCコード、フリーズフレームデータ、OBDステータス、ECU学習値(一部の学習値を除く)を消去します。

 警告	ECUリセットは、対象車両の整備マニュアルによりその機能および消去される内容を十分理解した上で行なってください。 使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。

<操作方法>

YES	ECUリセットを実行します。
C	前の画面に戻ります。

3.14. センサキャリブレーション

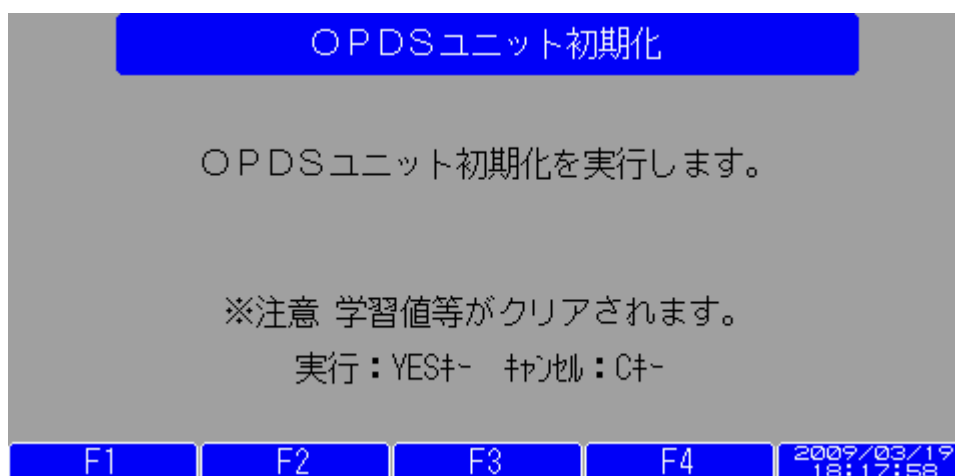
ABSのセンサキャリブレーションを実行します。

警告	センサキャリブレーションは、対象車両の整備マニュアルによりその機能および消去される内容を十分理解した上で行なってください。 使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。

<操作方法>

YES	補正データクリア実行後、センサキャリブレーションを実行します。
C	前の画面に戻ります。

3.15. OPDSユニット初期化

助手席のシートバックトリムカバー、シートバックパッドまたはOPDSユニットを交換した場合、この機能を使用してOPDSユニットの初期化を行います。

 警告	OPDSユニット初期化は、対象車両の整備マニュアルによりその機能および消去される内容を十分理解した上で行なってください。 使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。

<操作方法>

YES	OPDSユニット初期化を実行します。
C	前の画面に戻ります。

3.16. 作動履歴コード表示画面

車両が記憶している作動履歴コードを取得し表示します。
作動履歴がない場合、「作動履歴コード無し」を表示します。

<操作方法>

↑/↓	すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面のスクロールをします。
F4	画面のハードコピーを保存します。
YES/C	前の画面に戻ります。

※　取得された作動履歴コードによっては補足説明や検出条件がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

3.17. 故障履歴情報表示

車両が記憶している故障履歴情報を取得し表示します。

項目	値
過去ﾘｾｯﾄ故障	無し
現在ﾘｾｯﾄ故障	有り
過去ﾗｯﾁ故障	無し
現在ﾗｯﾁ故障	有り
ﾗｯﾁ故障警報回数	16
ﾗｯﾁ故障検知回数	255
ﾘｾｯﾄ故障警報回数	40
ﾘｾｯﾄ故障検知回数	0

F1	F2	F3	F4 画面保存	2009/03/19 18:18:26

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
C	前の画面に戻ります。
F4	画面のハードコピーを保存します。

3.18. OBDステータス

エンジン、トランスミッションシステムの各DTCに対する診断状況をモニタリングします。各診断はイグニッションスイッチをONした時点から開始され、現時点でまだ診断結果が確定していない場合は「未完了」、診断が完了しその結果が正常であれば「完了(正常)」、異常が検出されれば「完了(異常)」と表示されます。

OBDステータス表示

コード	ステータス	内容
P1298	完了(正常)	ｴﾚｸﾄﾘｶﾙ ﾛｰﾄﾞ ﾃﾞｨﾃｸﾀ 電圧高い
P1549	完了(正常)	充電装置電圧高い
P154A	完了(正常)	ﾊﾞｯﾃﾘｰｾﾝｻ故障
P154B	完了(正常)	ﾊﾞｯﾃﾘｰｾﾝｻ特性異常
P1658	未完了	ﾄﾞﾗｲﾌﾞﾊﾞｲﾜｲﾔ電源ﾘﾚｰ回路異常(ON故障)
P1659	完了(正常)	ﾄﾞﾗｲﾌﾞﾊﾞｲﾜｲﾔ電源ﾘﾚｰ回路異常(OFF故障)
P1683	未完了	ｽﾛｯﾄﾙｱｸﾁｭｴｰﾀﾃﾞﾌｫﾙﾄｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ異常
P1684	未完了	ｽﾛｯﾄﾙｱｸﾁｭｴｰﾀ ﾘﾀｰﾝ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ異常
P16BB	完了(正常)	交流ｼﾞｪﾈﾚｰﾀ B 端子電圧低い
P16E2	完了(正常)	LIN通信ｴﾗｰ(ACG)

サポートするOBD項目数 : 103

F1 | F2 | F3 | F4 画面保存 | 2013/08/04 14:18:48

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
C	前の画面に戻ります。
F4	画面のハードコピーを保存します。

3.19. 設定値クリア

データ表示で使用する設定値をクリアし初期の状態に戻す場合に実行します。

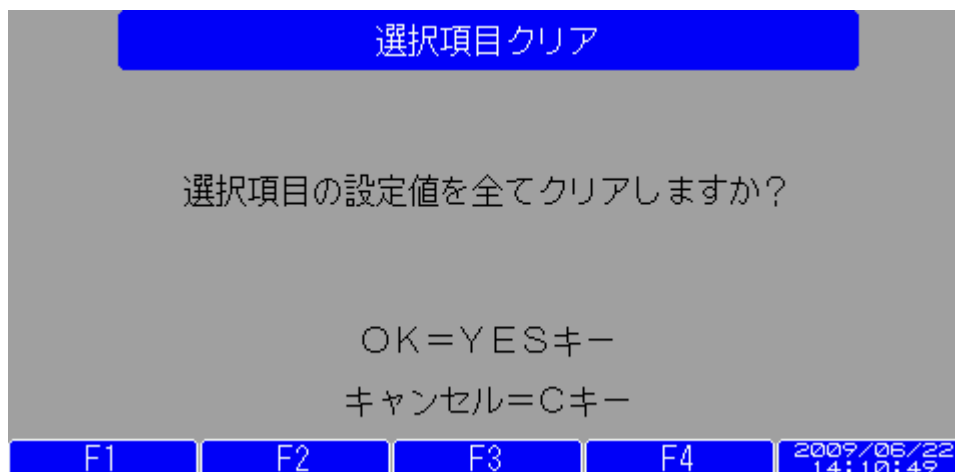
3.19.1. 設定値クリアメニュー

メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

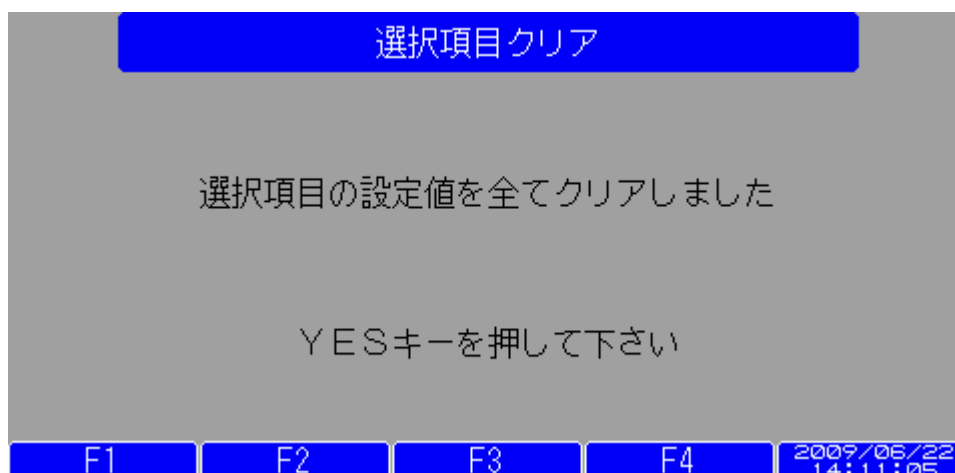
メニュー項目	参照項
選択項目	「3.19.2.選択項目クリア」
グラフレンジ	「3.19.3.グラフレンジクリア」

3.19.2. 選択項目クリア

データ表示の選択項目をクリアする場合に実行します。
実行後は選択項目がすべて解除され、データ表示時に「*」がすべて消去されます。

3.19.2.1.選択項目クリア確認

<操作方法>

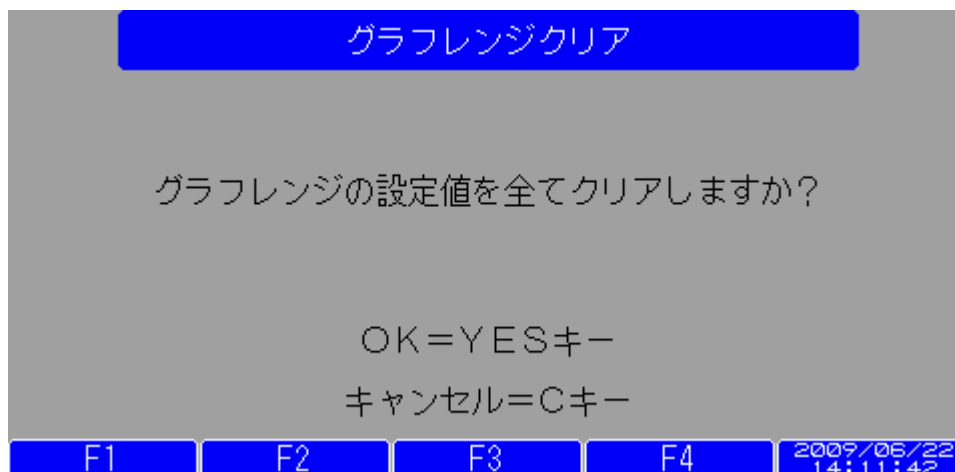
YES	選択項目をクリアし、「3.19.2.2.選択項目クリアメッセージ」を表示します。
C	「3.19.1.設定値クリアメニュー」に戻ります。

3.19.2.2.選択項目クリアメッセージ

<操作方法>

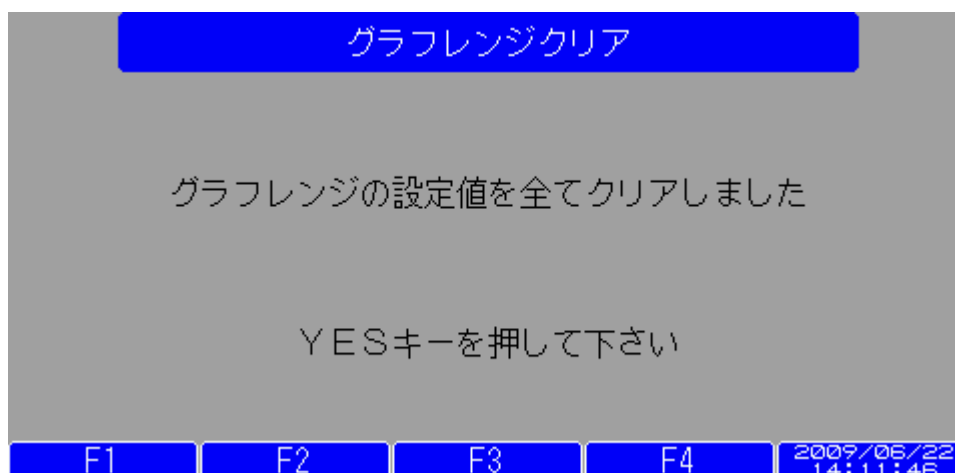
YES/C	「3.19.1.設定値クリアメニュー」に戻ります。

3.19.3. グラフレンジクリア

データ表示のグラフレンジをクリアする場合に実行します。
実行後は時間軸レンジ、項目レンジの変更がすべてクリアされ、初期の状態に戻ります。

3.19.3.1.グラフレンジクリア確認

<操作方法>

YES	時間軸レンジ、項目レンジをクリアし、「3.19.3.2.グラフレンジクリアメッセージ」を表示します。
C	「3.19.1.設定値クリアメニュー」に戻ります。

3.19.3.2.グラフレンジクリアメッセージ

<操作方法>

YES/C	「3.19.1.設定値クリアメニュー」に戻ります。

3.20. 保存データの表示

「データ表示」「ダイアグコードの点検」「フリーズフレームデータの点検」によって保存されたデータを再度表示する場合に実行します。

3.20.1. カテゴリー選択

カテゴリーで分けられている「データモニタ項目」「DTC項目」「フリーズフレーム項目」の何れかを選択した場合、選択したカテゴリーの保存データを表示します。

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
YES	カーソル上のカテゴリー項目に絞込み、「保存データの表示」を表示します。
C	「3.6.システム診断メニュー」に戻ります。

3.20.2. 保存データの表示

選択したカテゴリー項目の保存データを表示します。
保存データがない場合、「保存データがありません」を表示します。
※日付の新しい保存データから順に上から表示されます。

[データモニタ項目]

データモニタ項目			
No	システム	ファイル作成日時	区分
1	エンジン	2008/10/24 09:45:19	
2	エンジン	2008/10/17 09:38:25	
3	エンジン	2008/10/16 08:47:06	
4	エンジン	2008/10/16 08:45:04	
5	エンジン	2008/10/15 18:22:45	
6	エンジン	2008/10/15 18:20:07	
7	エンジン	2008/10/15 18:19:31	

F1 デ ータ解析 | F2 削除 | F3 バ ックアップ | F4 リストア | 2008/11/10 09:24:58

[DTC項目]

DTC項目			
No	システム	ファイル作成日時	区分
1	AT	2008/11/10 09:20:47	
2	エンジン	2008/11/10 09:10:12	
3	エンジン	2008/11/10 09:00:58	
4	ABS	2008/11/05 09:29:35	
5	エンジン	2008/11/04 17:38:41	
6	エンジン	2008/11/04 17:22:44	
7	エアバッグ	2008/10/30 16:08:31	
8	ABS	2008/10/30 16:08:19	
9	AT	2008/10/30 16:08:04	
10	エンジン	2008/10/30 16:07:47	

F1 デ ータ解析 | F2 削除 | F3 バ ックアップ | F4 リストア | 2008/11/10 09:25:50

[フリーズフレーム項目]

フリーズフレーム項目			
No	システム	ファイル作成日時	区分
1	エンジン	2008/11/05 12:00:45	
2	エンジン	2008/11/05 09:32:12	
3	エンジン	2008/11/04 15:45:47	
4	エンジン	2008/11/04 11:29:34	
5	エンジン	2008/11/04 11:18:15	
6	エンジン	2008/11/04 11:17:03	
7	エンジン	2008/11/04 11:15:55	

F1 デ ータ解析 | F2 削除 | F3 バ ックアップ | F4 リストア | 2008/11/10 09:25:55

<操作方法>

<table>
<tr><td>↑/↓</td><td colspan="2">カーソルの移動を行ないます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">YES</td><td>データモニタ
項目</td><td>カーソル上の保存データを読込み、「3.10.3.ホールドモード」へ移行します。
但し、保存データ表示時は「保存」「トリガ」「スタート」機能が実行できません。</td></tr>
<tr><td>DTC項目</td><td>カーソル上の保存データを読込み、「3.7.1.ダイアグコードの点検」へ移行します。
但し、保存データ表示時は「DTCクリア」「フリーズフレームデータ表示」「保存」機能が実行できません。</td></tr>
<tr><td>フリーズフレーム
項目</td><td>カーソル上の保存データを読込み、「3.7.3.フリーズフレームデータ表示」へ移行します。
但し、保存データ表示時は「保存」機能が実行できません。</td></tr>
<tr><td>C</td><td colspan="2">保存データの選択を中止し前の画面に戻ります。</td></tr>
<tr><td>S</td><td colspan="2">カーソル上のデータを選択/非選択状態にします。</td></tr>
<tr><td>F1</td><td colspan="2">データ解析対象選択画面を表示します。
「カーソル上のデータ」
「すべてのデータ」
「選択されたデータ」 ※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。
選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」に解析用データとして転送します。</td></tr>
<tr><td>F2</td><td colspan="2">カーソル上のデータを削除します。
※ 削除中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。</td></tr>
<tr><td>F3</td><td colspan="2">バックアップ対象選択画面を表示します。
「カーソル上のデータ」
「すべてのデータ」
「選択されたデータ」 ※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。
選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」にバックアップします。</td></tr>
<tr><td>F4</td><td colspan="2">パソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」でリストア対象に指定したデータをリストアします。</td></tr>
</table>

3.21. 画面保存データの表示

画面保存によって保存された画面のハードコピーデータを再度表示する場合に実行します。
※日付の新しい画面保存データから順に上から表示されます。

No	ｼｽﾃﾑ	ﾌｧｲﾙ作成日時
1	ｴﾝｼﾞﾝ	2008/11/10 16:47:03
2	ABS	2008/11/10 16:46:10
3	AT	2008/11/10 09:20:40
4	ｴﾝｼﾞﾝ	2008/11/10 09:10:33
5	ｴﾝｼﾞﾝ	2008/11/10 09:01:26
6	ｴﾝｼﾞﾝ	2008/11/05 12:00:17

F1	F2 削除	F3 ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟ	F4 ﾘｽﾄｱ	2008/11/10 17:34:32

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
YES	カーソル上の画面保存データを再表示します。 再表示後YESを押すと、この画面に戻ります。
C	保存データの選択を中止し前の画面に戻ります。
S	カーソル上のデータを選択/非選択状態にします。
F2	カーソル上のデータを削除します。 **※ 削除中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。**
F3	バックアップ対象選択画面を表示します。 「カーソル上のデータ」 「すべてのデータ」 「選択されたデータ」 **※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。** 選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」にバックアップします。
F4	パソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」でリストア対象に指定したデータをリストアします。

4.　アクティブテスト項目一覧

本アプリケーションがサポートしているアクティブテスト項目の一覧を以下に示します。テスト内容詳細は、アクティブテストメニューのテスト内容説明ならびに対象車両の整備マニュアルをご参照ください。

①　エンジン(H99)

No.	アクティブテスト項目	No.	アクティブテスト項目
1	EGRテスト	7	ラジエータファン
2	VTECソレノイドバルブ強制駆動	8	A/Cクラッチ
3	IACVテスト	9	燃料ポンプ強制停止
4	DBWテスト(リレー制御)	10	燃料ポンプ強制駆動
5	DBWテスト(開度制御)	11	インジェクタ気筒別停止
6	DBWテスト(TP学習値リセット)		

②　エンジン(CAN)

No.	アクティブテスト項目	No.	アクティブテスト項目
1	EGRテスト	7	A/Cクラッチ
2	VTECソレノイドバルブ強制駆動	8	燃料ポンプ強制停止
3	IACVテスト	9	燃料ポンプ強制駆動
4	DBWテスト(リレー制御)	10	インジェクタ気筒別停止
5	DBWテスト(開度制御)	11	ウェストゲートソレノイド強制駆動
6	ラジエータファン	12	P2 リリーフバルブ（エアバイパス）

③　トランスミッション(H99)

No.	アクティブテスト項目	No.	アクティブテスト項目
1	シフトソレノイドA	4	シフトソレノイドD
2	シフトソレノイドB	5	シフトソレノイドE
3	シフトソレノイドC	6	シフトロックソレノイドテスト

④　トランスミッション(CAN)

No.	アクティブテスト項目	No.	アクティブテスト項目
1	シフトソレノイドA	4	シフトソレノイドD
2	シフトソレノイドB	5	シフトソレノイドE
3	シフトソレノイドC	6	シフトロックソレノイドテスト

⑤　CVT(CAN)

No.	アクティブテスト項目	No.	アクティブテスト項目
1	インヒビターソレノイド	3	シフトソレノイドB
2	シフトソレノイドA	4	シフトロックソレノイドテスト

5.　アナログ−ECU同時計測

本アプリケーションは、診断機本体に拡張計測ボードを装着することにより、電圧計測データ(アナログデータ) と車両データ(ECUデータ) を同時表示することができます。(アナログ−ECU同時計測)

アナログ−ECU同時計測について以下に示します。

5.1.　対応機能

アナログ−ECU同時計測で対応する機能を以下に示します。

<アナログ−ECU同時計測対応機能>

診断機能	参照項
車両故障診断メニュー	5.3.1
計測設定	5.3.2
現在のデータ表示/保存	5.3.3
保存データの再表示	5.3.3

※　上記以外の機能についてはアナログ−ECU同時計測の対応はありません。

5.2.　接続

(1) 診断機本体に拡張計測ボードが装着されていない場合は、診断機の電源がOFFであることを確認し、装着してください。

拡張計測ボード　形式　　　　:Measure KIT

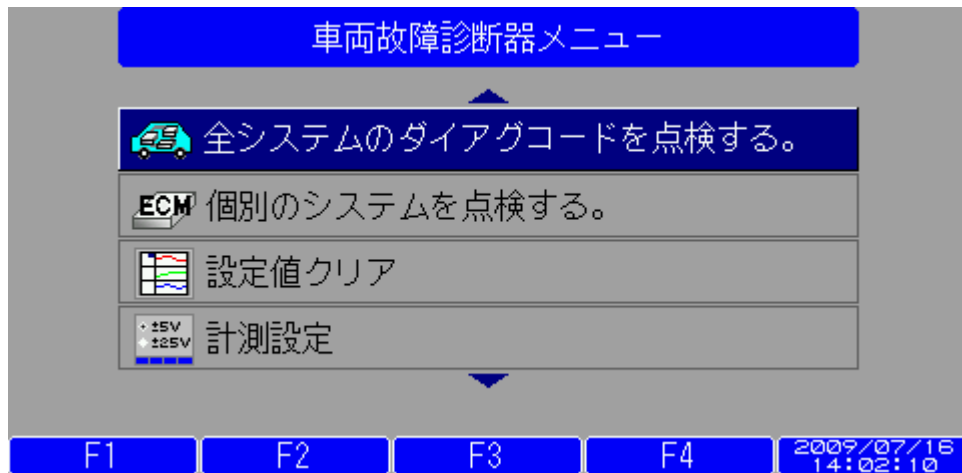
　　　　　　　　品名コード　:51400391

(2) 計測用プローブ、プローブボックス、診断機を接続してください。

(3) 診断機の電源をONにします。

5.3. 操作

5.3.1. 車両故障診断メニュー

診断機本体に拡張計測ボードが装着されている場合のみ「計測設定」メニューを表示します。
車両故障診断メニューの操作方法につきましては「3.2.車両故障診断メニュー」をご参照ください。

「計測設定」メニューをYESで選択すると、「5.3.2.計測設定」を実行します。

5.3.2. 計測設定

計測設定では、同時計測あり/なし、アナログハードレンジ(拡張計測ボードの電圧計測レンジ)、サンプリング周期の設定を行ないます。

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
←/→	設定の変更を行ないます。
YES	設定を確定し、「5.3.1.車両故障診断メニュー」に戻ります。
C	設定を中止し、「5.3.1.車両故障診断メニュー」に戻ります。

<計測設定値>

同時計測	なし	アナログ-ECU同時計測を行ないません。
	あり	アナログ-ECU同時計測を行ないます。
CH1 レンジ	チャンネル1のアナログハードレンジを±5Vまたは±25Vで設定します。	
CH2 レンジ	チャンネル2のアナログハードレンジを±5Vまたは±25Vで設定します。	
CH3 レンジ	チャンネル3のアナログハードレンジを±5Vまたは±25Vで設定します。	
CH4 レンジ	チャンネル4のアナログハードレンジを±5Vまたは±25Vで設定します。	
サンプリング周期	アナログ計測のサンプリング周期を50～100ミリ秒(10ミリ秒きざみ)で設定します。	

※ 「CH1 レンジ」～「サンプリング周期」は同時計測ありの場合のみ設定できます。

5.3.3. 同時計測表示例

同時計測ありの場合、データ表示において項目の先頭にアナログデータを表示します。
アナログデータは「CH1」、「CH2」、「CH3」、「CH4」で表示します。
以下に同時計測の数値データ表示、グラフ1表示およびグラフ2表示の例を示します。
現在のデータ表示/保存、保存データの表示において同様の画面を表示します。
操作方法につきましては同時計測なしの場合と同じです。

「トリガ設定」ではアナログデータをトリガ設定できます。アナログデータは「CH1」、「CH2」、「CH3」、「CH4」で表示します。

【注意】
データ表示において非測定チャンネルに信号が表示されることがありますが故障ではありません。
非測定チャンネルにも信号を入力すると正確に表示されます。

6. 排気ガス−ECU同時計測

本アプリケーションは、診断機本体と排気ガス測定器(株式会社堀場製作所製 排気ガス測定器 MEXA−584L)を、RS232Cカードを介して接続することにより、排気ガス測定器の計測データ(通信データ) と車両データ(ECUデータ)を同時表示することができます。(排気ガス−ECU同時計測)

排気ガス−ECU同時計測について以下に示します。

6.1. 対応機能

排気ガス−ECU同時計測で対応する機能を以下に示します。

<排気ガス−ECU同時計測対応機能>

診断機能	参照項
車両故障診断メニュー	6.3.1
計測設定	6.3.2
現在のデータ表示/保存	6.3.3
アクティブテスト	6.3.3
保存データの再表示	6.3.3

※ 上記以外の機能については排気ガス−ECU同時計測の対応はありません。

6.2. 接続

(1) 排気ガス測定器が対象排気ガス測定器(下記「サポート機器」参照)であることを確認してください。
(2) RS232Cカードが対象RS232Cカード(下記「サポート機器」参照)であることを確認してください。
(3) 診断機の電源がOFFであることを確認し、CFカードを挿入してください。
(4) 診断機の電源がOFFであることを確認し、空いているドライブにRS232Cカードを挿入してください。
(5) 排気ガス測定器の電源がOFFであることを確認し、診断機と排気ガス測定器をRS232Cケーブルで接続してください。(排気ガス測定器側の接続方法は排気ガス測定器の取扱説明書に従ってください)
(6) 排気ガス測定器の電源をONにします。
(7) 診断機の電源をONにします。

※排気ガス−ECU同時計測を行う場合は、故障診断機のファームウェアのバージョンを1.7.6以上にアップデートしてください。

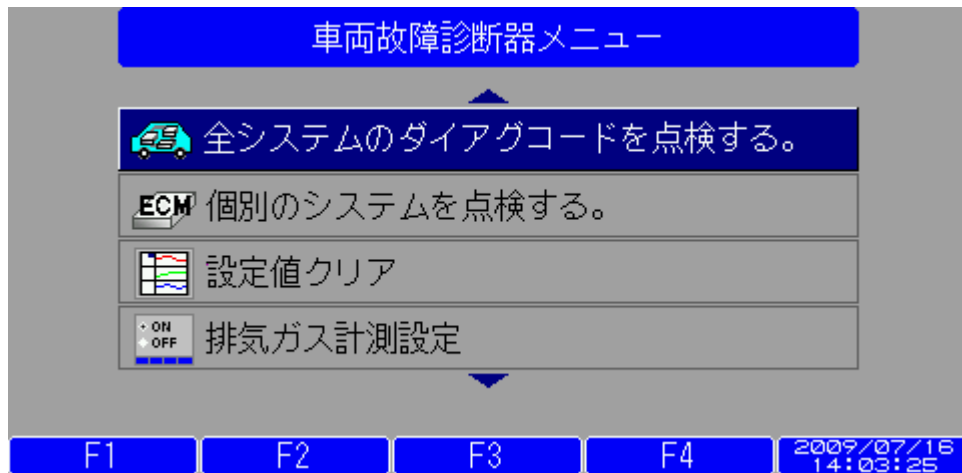
＜サポート機器＞

(1) 排気ガス測定器
株式会社堀場製作所製 排ガス測定器 MEXA−584L

(2) RS232Cカード
キット同梱のRS232Cカード

6.3. 操作

6.3.1. 車両故障診断メニュー

診断機本体にRS232Cカードが挿入されている場合のみ「排気ガス計測設定」を表示します。
車両故障診断メニューの操作方法につきましては「3.2.車両故障診断メニュー」をご参照ください。

「排気ガス計測設定」をYESで選択すると、「6.3.2.排気ガス計測設定」を実行します。

※拡張計測ボードを装着している場合は、アナログ計測の「計測設定」メニューの下に、「排気ガス計測設定」を表示します。

6.3.2. 排気ガス計測設定

排気ガス計測設定では、排気ガス同時計測あり/なしの設定を行ないます。

<操作方法>

←/→	設定の変更を行ないます。
YES	設定を確定し、「6.3.1.車両故障診断メニュー」に戻ります。
C	設定を中止し、「6.3.1.車両故障診断メニュー」に戻ります。

<計測設定値>

同時計測	なし	排気ガス-ECU同時計測を行ないません。
	あり	排気ガス-ECU同時計測を行ないます。

6.3.3. 排気ガス同時計測表示例

排気ガス同時計測ありの場合、データ表示において項目の先頭に排気ガスデータを表示します。
以下に排気ガス同時計測の数値データ表示、グラフ1表示およびグラフ2表示の例を示します。
現在のデータ表示/保存、アクティブテスト、保存データの表示において同様の画面を表示します。
操作方法につきましては排気ガス同時計測なしの場合と同じです。

※アナログ同時計測ありの場合は、アナログ計測表示の下に排気ガス計測データを表示します。

「トリガ設定」では排気ガスデータをトリガ設定できます。
排気ガスデータは「O2」、「CO」、「CO2」、「HC」、「NO」、「A/F」、「λ(LAMBDA)」で表示します。

■お問い合わせについて

この製品について不明な点がある場合や故障と思われる場合には、故障診断機キットに同梱されています故障診断機本体取扱説明書のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

ホンダ車故障診断アプリケーション Version8.0.0

取扱説明書

2015年1月　　　初版発行